



目次

謝辞	03
前書き	05
はじめに	07
第1章 環境保全と持続可能な開発	09
1.1 生態系と景観	09
1.2 水	11
1.3 土壌	14
1.4 空気	16
1.5 生物多様性	19
1.6 エネルギー	23
1.7 汚染物質や廃棄物	26
1.8 環境保全と持続可能な開発の政治的側面	28
1.9 環境保全と持続可能な開発の社会的側面	30
1.10 環境保全と持続可能な開発の経済的側面	34
1.11 ミレニアム開発目標	35
第2章 環境と持続可能な開発に配慮したスポーツに関する一般条件	37
2.1 スポーツを通じた活動	37
2.2 活動の場	37
2.3 心構え	38
2.4 基本原則	39
第3章 スポーツ開催時の環境と持続可能な開発	41
3.1 スポーツ統括団体	41
3.2 スポーツ団体	42
3.3 選手の個人的行動	47
3.4 スポーツイベント	48
3.5 建物や他の建造物	51
3.6 用具メーカー	54
3.7 メディア	54
3.8 発展途上国に合った基準	54
3.9 現地の状況に応じた優先事項	56
第4章 オリンピック競技別の、環境と持続可能な開発のための条件	57
4.1 スポーツと環境条件	57
4.2 自然環境下における陸上での競技	57
4.2.1 自転車競技	58
4.2.2 馬術	62
4.3 自然環境下における水上での競技	67
4.3.1 概要	67
4.3.2 セーリング	70





4.3.3	ボート	73
4.3.4	カヌー	75
4.4	水上での競技	78
4.4.1	水泳	78
4.4.2	オープンウォータースイミング	82
4.5	屋外競技	86
4.5.1	概要	86
4.5.2	陸上競技	86
4.5.3	テニス	90
4.5.4	アーチェリー	92
4.5.5	射撃	95
4.5.6	サッカー	97
4.5.7	野球	101
4.5.8	ホッケー	103
4.5.9	近代五種競技	105
4.5.10	トライアスロン	107
4.6	室内競技	108
4.6.1	概要	108
4.6.2	体操	111
4.6.3	レスリング	113
4.6.4	柔道	115
4.6.5	テコンドー	117
4.6.6	ボクシング	119
4.6.7	ウエイトリフティング	121
4.6.8	卓球	123
4.6.9	バドミントン	125
4.6.10	フェンシング	127
4.6.11	バスケットボール	129
4.6.12	バレーボール	132
4.6.13	ハンドボール	135
4.6.14	ソフトボール	137
4.7	冬季オリンピック競技	140
4.7.1	概要	140
4.7.2	雪上競技：スキー	142
4.7.3	雪上競技：バイアスロン	146
4.7.4	氷上競技：スケート	147
4.7.5	アイスホッケー	150
4.7.6	カーリング	152
4.7.7	ソリ競技：ボブスレーとスケルトン	154
4.7.8	ソリ競技：リュージュ	157
第5章 「地球規模で考え、足もとから行動する」		161
写真クレジット		162
参考文献と参考ウェブサイト		163

謝辞

国際オリンピック委員会(IOC)のスポーツと環境委員会の要請によりIOCが制作を委託して完成した本ガイドブックは、その制作にご支援をいただいた多くの関係者及び関係団体の連携と努力の賜物です。

本プロジェクト開始当初からの協力者で、本ガイドブックを起草し、数多くの写真を提供くださったスイス連邦工科大学ローザンヌ校のジョセフ・タラデラス教授に謝意を表します。また、同氏の同僚であるドミニク・ロッセル博士とクロード・ジャケ氏には主要な部分で助言をいただきました。両氏に対し、ここに感謝申し上げます。

さらに、資料の提供と本ガイドブックに関する貴重なコメントをいただいた夏季/冬季オリンピック競技の各国際競技連盟には特に深謝します。オリンピック競技全般の環境問題と持続可能な開発の問題に対処する上で、各連盟の専門知識が大いに役立ちました。

最後に、本ガイドブックの出版に貢献いただいたすべての関係者や関係部門に謝意を表します。



T.A. Ganda Sithole

ガンダ シトレ

IOC国際協力開発局局長



前書き



環境問題は、万人の日常生活に影響を与えるものであり、全世界で広く懸念されています。

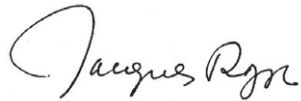
レクリエーションや体育活動と同様、社会の重要な一端を担うスポーツの分野でも、環境問題と持続可能な開発の問題は無視できないテーマです。

国際オリンピック委員会がスポーツや文化と並んで、環境をオリンピックムーブメントの第三の柱とみなす理由は、そこにあります。我々の目的は、環境に悪影響を及ぼすことなくオリンピックを開催することです。さらには、オリンピック開催をきっかけに、健康的な環境の重要性について広く啓発し、地域環境の発展や改善につなげながら緑の遺産を残すことにあるのです。

「IOCスポーツと環境ガイドブック」の発行により我々が目指すものは、各種スポーツ関係者、特にオリンピック競技関係者が、環境に与える影響の分析を通してスポーツ界全体に指針を示すこと、そして実的な解決策や情報を提供することです。

本ガイドブックを通して、スポーツ界に期待されるのは、スポーツの実践に関する環境問題と持続可能な開発の問題について責任ある態度を取るよう啓発し努力することです。それにより、スポーツは、今後もあらゆる地域で人類と環境との間の調和のとれた発展に寄与し、人類の幸福に貢献するでしょう。

本ガイドブックの導入によって、オリンピックムーブメントのスポーツと環境、持続可能な開発に対する責任を、一丸となって再確認しましょう。



Jacques Rogge

ジャック ロゲ

国際オリンピック委員会会長



はじめに



人類と自然の関係は、有史以来、あらゆる文明で存在した概念です。しかし、社会的、経済的発展を欠いた状態の環境保全が不可能であることが20世紀末に認識され、それが現在の持続可能な開発の概念につながりました。

環境保全はスポーツにとって重要なテーマです。余暇に行う運動であろうとトップレベルの競技会であろうと、スポーツは、社会の中核的要素といえます。世界のあらゆる場所で、何百万人もの男女、少年少女、子供、大人を集めて、多種多様なスポーツのクラブ、団体、機関が活況を呈しています。あらゆる活動同様、スポーツも環境に影響を及ぼすだけでなく、環境の影響も受けます。スポーツと持続可能な開発には強い関わりがあり、その両方に対処することがますます必要となっています。

社会的にも経済的にも発展しながら、健康的な自然環境を保全し、現世代や将来世代がスポーツを楽しめるようにすることは重要です。そのためには、特にオリンピックムーブメントと国際オリンピック委員会が環境保全と持続可能な開発の分野で役割を果たす必要があります。

こうした枠組みの中で、1999年にオリンピックムーブメントがスポーツ界に対してアジェンダ21を採用し、スポーツの持続可能な開発を実現するためにスポーツマンやスポーツウーマンが対応できる特別な問題や課題を明らかにしました。

国際レベルや地域レベルで、スポーツと環境に関するいくつかの会議やセミナーが開催されたのちに、オリンピックファミリーの各メンバーはアジェンダ21の勧告に従い、具体的な対策やプログラムを策定する際に役立つガイドブックをつくることを決定しました。

こうして、持続可能な開発という基本原則に従い、スポーツ界に方法論的ツールや実用的ツールを提供する目的で「IOCスポーツと環境・競技別ガイドブック」は完成したのです。本ガイドブックでは、理論や概念を実践的な取り組みや行動に発展させる方法、また、多様な地理的・社会経済的・文化的背景やスポーツ事情に起因する現地の特異性に考慮しながら、地球が直面する難題や環境保全の必要性を理解する方法を提示しています。

本ガイドブック(図1参照)は、5つの章から構成されます。第1章では、環境と持続可能な開発に関する最も重要な最新知識を再確認します。第2章では、スポーツ界にとって特に重要な環境問題と持続可能な開発の問題を取り上げます。第3章では、スポーツ開催時の規則とその応用方法について説明します。第4章では、上記の問題と各オリンピック競技との関係を示し、最終章では、今後の対策を提案します。

また、本ガイドブックは、特に以下を考慮に入れています。

- 関係者や関係グループ(選手、アマチュアスポーツ参加者、コーチ、クラブ、連盟、スポーツイベント主催者、観客、用具メーカー、スポーツ施設の施工者やマネージャー、メディア)の様々な関与
- 各種競技による違い(夏季/冬季、屋内/屋外、個人/チーム、水上/陸上など)

オリンピックファミリーが「地球規模で考え、足もとから実行する」というモットーをさらに実践する際に役立つ新たなツールを、本ガイドブックが提供できることを願っています。



Pal Schmitt

パル シュミット

IOCスポーツと環境委員会委員長



図1：本ガイドブックの構成